

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400138		
法人名	株式会社 ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	出雲ケアセンターそよ風		
所在地	島根県出雲市今市876-9		
自己評価作成日	H28年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400138-00&PrefCd=32&VersionCd=
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	平成28年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>出雲市役所から徒歩5分で、維持も市の街の中心部に位置しており、近所には商店も多い。交通の便も良くご家族の面会も定期的にある。他事業所も併設しており、デイサービス、ショートステイと外部からのご利用者との交流もあり活気ある施設である。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>デイサービス、ショートステイ、居宅支援事業所が併設された3階建ての建物の3階部分がグループホームとなっています。出雲市駅が近く出雲市街の中心にあり交通の便も良いので、家族、友人の方も気軽に来られ面会も多くなっています。また、デイサービスやショートステイに知り合いの利用者さんがおられる方は合いに行かれたりもされます。年1回は家族の方共にイチゴ狩りに出掛けられる事も楽しみの一つとなっています。7月には保育園児と七夕の笹飾りをされ楽しく交流をされました。利用者職員は和やかな会話や支援を受けられ穏やかに日々を過ごされています。介護が進んだ場合でも職員の手厚いケアで過ごせるようにされています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつくところへ理念を掲示して共有している。理念に沿ったケアが出来るよう意識している。	事業所の理念をホーム入り口であるエレベーターホールや事務室内に掲示され、日々職員同士声を掛け合いながら理念に沿ったケアを実践出来るよう心掛けておられます。各ユニットごとに朝礼、申し送り時に唱和もされています。新人職員は新人研修に於いて理念の研修を受けケア現場に立たれます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に所属し、職員が地域の活動に参加するようにしている。ご利用者の参加する機会は少なくなっている。	自治会に参加され、清掃活動等の地域活動については職員が参加し交流されています。ケアセンターそよ風周年祭には近所の方にもご案内を行い多くの方にご来場頂かれています。又、障がい者運営のサロンにお茶を飲みに行く交流も続いています。7月には保育園児と七夕の笹飾りをされ楽しく交流をされました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時には避難場所として利用して頂けるよう、運営推進会議の場でお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の報告を行い、また、市・あんしん支援センター、地域の方からの情報や意見を頂き情報交換の場として役立てている。	2ヶ月に1回開催されています。出雲市担当職員、安心支援センター職員、地域住民の方が参加されています。状況報告、活動報告、避難訓練、地域ボランティア等について意見交換されています。	出席メンバーを固定化せず、テーマ毎に地域コミュニティセンター長や避難訓練後に消防署職員に依頼するなど検討されても良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂いて、施設内の様子を詳しく伝えるように努めている。	運営推進会議にも参加頂いています。避難訓練の様子や利用者の状況等説明されています。介護保険制度や請求について不明な点があれば相談されている。市の介護相談員の方に3ヶ月に1回訪問頂き、利用者の意見・要望等を聞いて頂き、サービスに活かされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を受け、身体拘束についての知識と理解を深めている。	出雲ケアセンターそよ風としての内部研修が実施されており、職員も理解されています。スピーチロック、虐待について内部接遇研修が実施されており、日々職員は身体拘束をしないケアに取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修を受け、各自がレポート提出し高齢者虐待について理解している。また、防止に努めて日々従事している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前施設内研修を受けた。ご利用者の方で後見人を付けている方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度ご家族に説明を行っている。納得を頂いた上で、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との面会、電話等随時意見を頂くようにしている。また、介護相談員の訪問を受けご利用者の意見を外部の方に直接いう機会もある。	家族の面会は、月1回以上来られる方が半数以上と多くなっています。管理者や職員は面会時や年1回の家族会で意見や要望を聞きユニット会議で検討されています。便りは月請求送付と一緒に送付し行事等の笑顔や様子をお知らせします。遠方の家族には電話で様子をお伝えし意見・要望を聞かれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長は職員面談を定期的に行い、職員一人ひとりの意見を聞いている。	センター長が年2回は職員の意見・要望等を聞きかきかいが設けられています。月1回づつの各ユニット会議と全体会議等では、ケア内容や利用者の状況を職員で検討されサービスの向上に取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長は職員一人ひとりの状態を把握し、意欲的に働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内勉強会の企画、参加への呼びかけに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が交流を図る機会はないが、代表者や管理者が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症状が重度の方が多いため、ご家族から伺うことが多い。出来るだけ入居前の環境に近い状況で安心出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から入居以前の話をお伺い、出来るだけ詳しく状況を把握し情報を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後にリハビリを希望され、適切な介護保険施設等の説明はさせて頂いたことがあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、洗濯物干し、調理等出来る事をして頂いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度相談しご本人が良い状態で過ごせるよう一緒に考えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく来て頂けるよう、希望に応じてそれぞれのホールや居室で面会して頂いている。	併設デイサービスやショート利用の友人が来られ馴染みの関係が継続されている方もあります。家族や友人の方の訪問も多く、ホール居室でゆっくりと面会頂けるように配慮されています。墓参りに家族と出かれられる方もあります。	身体的に重度化してくると出かけるにくくなります。昔の古い写真集や映像などを見ながら、昔を思い出すといった取組みをされても良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レベルに応じて会話出来る方は同じテーブルにする配慮した席でホールで過ごして頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでないが、相談があれば応じたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時は意思を伝える事が可能な方には伺いを立て出来るだけ希望に沿った暮らし方を援助している。	ケアプラン作成時に本人、家族より思いや意向を聞くように作成されています。アセスメント時に生活習慣、暮らし方等聞き思いや意向に取り入れられています。	生きる目標となる様な思いや意向が把握されると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活をご家族、本人から聞き情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤帯、日勤帯の記録をきちんと書き、それを各勤務者が読んで情報収集している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意見を基に、職員間でのカンファレンスを行い現状に必要なプラン作成に努めている。	本人、家族から意向、思いを聞き職員カンファレンスを行いケアプランを作成されています。状態変化があった時はプランの見直しが行われます。モニタリング月1回、評価6ヶ月1回実施されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録一日の様子が細かく記録出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じセンター内にDS、SS、居宅がある為、状況に応じた事業所での対応が可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院や商店等が近くにあり必要時はすぐに出掛け受診や買い物が可能である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの掛かりつけ医との関係を大切にしているが、希望があれば往診が可能な協力医院への変更も出来る。	協力医は2週間に1回往診に来られますので、入所時にかかりつけ医を協力医に変更される方も多いです。入所前のかかりつけ医を利用の方もあり、家族が受診同行されています。他科受診も原則家族での受診をお願いされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護師が訪問し健康管理している。ご利用者一人ひとりの気になる事を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時は病院とも連携し、退院に向けた流れがスムーズにいくように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての指針を説明し同意を得ている。看取りを希望され、看取りの状態に入られればカンファレンスを行い、関係者で意向、意思の確認をしている。	入所時に看取りの指針を説明され同意も得られています。看取りの状態になった時家族、医療機関、ホーム職員等でカンファレンスを行い意向、意思の確認が行われます。看取りの経験がある職員も多く、ケアをチームで支援に取り組む体制はあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は今のところ出来ていないが、年アكنの勉強会に入れて行く予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は夜間想定で年に2度行っている。	火災時避難訓練は夜間想定で年2回行われています。グループホームは3階なので、水害は問題なく、建物も耐震です。備蓄は施設で用意されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付け、馴染みの関係の中にも尊敬の気持ちを持った声掛けに努めている。	接遇研修を行われ言葉使いに気をつけケアをされています。職員はスピーチロックも十分に理解されており、馴染みの関係となっても誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に気を付けながらケアにあたられています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方にはどうされるかの選択や希望が表現出来るような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを崩さない程度に、本人の時間を尊重しながら生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方は自分で選びコーディネートされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、テーブルを拭く等の出来ることをして食事の用意を手伝ってもらっている。	野菜を切ったり、テーブルを拭くなど出来る事をして頂いています。身体的重度化が進み年々出来る事が減ってきています。外食の代わりに夕食に弁当を取り楽しめる機会もあります。誕生日にはケーキを食べられ楽しんでいる。外食の機会がないが行事で「いずも花の郷」などに出かけられ外食を楽しめます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が確保出来るように声掛けをしたり、進むような好みの物を提供している。食事は摂れない方は医師と相談し栄養補助ドリンクも飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力や状態の応じて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ないところを支援しながら、時間毎の声掛けをし、出来るだけトイレでの排泄に繋がるように努めている。	時間ごとの声かけ、タイミングを図るなどをトイレで排泄の支援が行われています。重度の方はベッド上でおむつ交換をされ褥創ができないよう時間ごとの体位変換も行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、ヨーグルト、牛乳等を積極的に摂ってもらい自然な排便が出来るよう支援している。排便時は料と形状も記録し把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には一日毎に入ってもらっている。声掛けをし希望の時間帯に入ってもらっている。	2日に1回入浴支援を行われています。声掛けをし利用者の方の希望の時間で入浴を楽しめます。拒否の方は声掛け、タイミングを変えながら、入浴して頂くようにされています。重度の方はシャワーキャリー使用でシャワー浴をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間も昼食後に1時間程度の午睡をして頂いているが、習慣のない方はホールで過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が一括して管理しているが、薬の説明書等により職員も把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きな事や趣味を理解し、継続して出来るような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の外出は難しいが年に一度GHでの外出(イチゴ狩り)が出来るようにご家族の協力も得て行っている。自宅や買い物等ご家族と行かれる方もいる。	身体的重度化に伴いみんなで外出する事が出来にくくなってきています。年1度ホーム全体での外出でいちご狩りに家族と共に出かけられますが、利用者、家族共とても喜んでおられます。自宅に外出や買い物に家族と出かけられる方がありません。	外出が難しいようであれば、ベランダの洗濯物干し、朝顔の水やりなどの外気に触れる機会を作られても良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている方は一人だけで、他は管理が難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	掛ける方には年賀状、暑中見舞いをご家族宛てに書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけストレスなく過ごして頂けるように、物を片付けるように努めている。季節を感じてもらえるよう壁の装飾品等配慮している。	ホール、居室はエアコンで温度管理をされていました。暑い時期なので熱中症や水分補給に気を付けておられました。ホーム入り口には季節の生花が活けてあり、ホールの壁は季節の飾り付けが施されておりご利用者の方に季節を感じて頂けるような工夫がされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は決まっているが、ソファもあり自分の好きな場所で過ごせる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に使い慣れた物や、家族との写真等を持って来てもらい、安心して過ごせるような支援をしている。	ご家族に依頼され今まで使っておられたものや思い出の詰まった物などを持ち込んでもらっていました。位牌や家族の写真、小物等を持ち込まれている方がおられました。自宅に少しでも近いかんかくで過ごして頂けるように工夫されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には名前が書いてあったり、目印があり自分で気質出来るよう配慮されている。		